

2010年3月23日発行

# エコ・リサ通信 第70号

特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

市民力を活かし  
バイオマスで  
楽しいまちおこし

エコ・リサイクル交流集会  
2010 報告



2010年2月18日(木)さいたま市文化センターにおいて、今年度は、エコ・リサイクル連絡会主催による交流会を開催しました。

埼玉県内初のバイオマスタウン構想に名乗りをあげた秩父市の報告、狭山市、桶川市の市民による積極的な環境保全活動の事例報告に、参加者が元気になれるエコ・リサ交流集会となりました。

## 資源循環推進課コーナー

埼玉県では、繰り返し使えるマイバッグの利用を促進し、レジ袋の削減に取り組んでいます。

このたび、資源を大切にし、ごみを出さないライフスタイルへの転換を学生に呼びかけるため、平成22年2月3日(水)に埼玉大学において、マイバッグ・キャンペーンを行いました。

また、次世代を担う学生の皆さんに、環境に関心を持ってもらうため、パネル展示等により啓発活動を行いました。

～概要～

### (1) マイバッグ・キャンペーン

パネル、のぼり旗等による啓発及びマイバッグの配布

### (2) ミニ・エコ展

電気自動車の展示及びパネル説明

マイボトル利用促進のパネル展示

環境科学国際センターによるパネル展示

食品ロスに関するチラシの配布

### (3) マイバッグ・キャンペーンは、「埼玉県緊急雇用創出基金事業」として実施しました。



マイバッグを受け取る大学生

## (1) バイオマスの利活用について

講師：埼玉県農林部 農地活用推進課

バイオマス担当 金子 知人氏

バイオマスとは動植物に由来する有機物である資源であり、太陽のエネルギーを使って動植物が産み出すものであり、再生可能な資源ということです。食品残渣などからの飼料、肥料、一度使われた食用油をディーゼル燃料に、木質ペレットは、間伐材や樹皮などを燃料にするという利用の仕方です。

埼玉県では、食品残渣という利用率の低いものをどう引きあげていくか、を今後の政策課題としております。県でも「推進基本計画」を作りまして、23年度には54%に引き上げていきたい、と目標を掲げています。

平成14年の12月、国が「バイオマスニッポン総合戦略」をつくりました。バイオマスタウンの概要は関係者の幅広い協力体制のもとに、地域特性に応じてくみあわせて、効率的に利用して行きましょうというものです。

主な取り組み例・・・栃木県の茂木町は家畜のふん尿、生ごみ、剪定枝を堆肥化するプラントを町でつくって、その堆肥を地元の生産者が使って、できた農産物を道の駅や直売所で販売をする、と地域全体の活性化を図っていかうというものです。

大分県日田市、こちらも家畜のふん尿、生ごみ等をガス化にしたり、堆肥化にしたりしています。木材チップを製造して販売もしています。

埼玉県も秩父市だけでなく、第2、第3のバイオマスタウン構想を作っていきたいな、と思っております。いきなり実施はむずかしいので、ひとつひとつのとりくみを増やしていこうとして進めています。県内の優良事例・・・熊谷市のめぬま有機センター、家畜のふん尿の処理施設を作って、堆肥を地元の野菜の栽培等に使っています。次は事業系の生ごみを寄居にある資源循環工場の民間事業者が堆肥化をして、お米や野菜の肥料につかっているという事例です。その次は集まってくる食品残渣の種類に応じて豚のエサにしたり肥料にしたり、品質についても、県の試験研究機関と一緒に肉質の研究にとりくんで実用化している、というものです。県内でもいろんなとりくみがあります。輪を広げていってバイオマス利用をすすめていきたいな、というふうに考えております。

そして食品ロス、食べられるものは捨てずに食べましょう、やむを得ず、出たものについてはバイオマス利用して行きましょう、というとりくみをしております。



## (2) 秩父市のバイオマスの取り組み

秩父市役所環境農林部 管理幹 大野輝尚氏

秩父市でバイオマスにとりくみはじめたのは、平成15年から木質バイオマスからと、日本ではじめての木質バイオマスのガス化ガスエンジンの熱電併給システムで平成19年の1月に稼働させることができました。

秩父市は87%が森林です。埼玉県全体の森林面積の40%にあたるんですね。

人口は7万人で、第1次産業は、40年で激減しました。林業の就業者は、9分の1で現在139人になってしまった、という状況です。

森林の中で、個人所有の山の半分はスギやヒノキの人工林で、戦後植えられたものです。伐る時期を迎えています。なかなか手入れがすすまなかった。木材価格の低迷、林業労働者の減少・高齢化で荒廃の危機にあると言われています。全国平均の山元立木価格は1955年スギが1立方メートル4478円でした。2004年にも4407円とほとんど変わっていません。賃金は上がっていますから、雇用できる伐木作業員の数も1961年に11.8人だったものが、2003年には0.4人になってしまった、というような状況です。

平成17年 第1号機のガス化発電所を吉田元気村という集客施設につくろうということになりました。間伐材や残材を出してきて、木材として使えるものは木材に、使えないところはバイオマス熱電併給で、元気村に供給しましょう、ということでスタートいたしました。山をよく知っている地域の人に山の先生になってもらったり、環境学習・宿泊体験の場に、観光との連携、視察研究会の受け入れ

など地域住民との協働作業で地域の活性化・地域振興に結び付けたい、ということで事業をスタートさせました。吉田元気村は平成8年～10年に整備をされた施設で、すべて木です。クラブハウス、体育館、コテージがあります。コテージには薪のストーブがあります。温水をお風呂と足湯に供給します。

「山村力誘発モデル事業」・・・豊島区、荒川区、さいたま市などに話をしながら都市と山村の交流事業で、「森と水の応援団」として森林ボランティアに入っていたり、環境学習をすすめたり、また、炭ができますので、ご利用いただくようなこともはじめました。

今年コスト面で発電所を一時凍結ということで4月いっぱいまで止めて、9月15日から再開しました。コストがかかりすぎるので、それに対して取り組みを行っています。成果や課題を発信し、国等にも制度設計をしてもらおうと要望活動もしています。

再開するにあたって、埼玉県の「ふるさと雇用創出基金活用事業」を活用して、山から間伐材の搬出、林内整備で4人の新規の雇用を得ました。チップの加工ではひとり、新規に雇う、発電所の運転と体験教育の実践で3人の新しい雇用を得ました。

### ちちぶバイオマス元気村発電所

- バイオマス発電の目的 -

- 森林の再生と保全
- 地球温暖化問題への対応
- 資源循環型社会の構築
- 林業をはじめとする産業の振興
- 新規産業と雇用の創出による地域の活性化
- 環境学習の推進



木質バイオマス・エネルギーの利用

計 画 値 -

電気: 発電端 115kW 送電端 100kW  
 熱 : 有効利用熱量 150Mcal/時  
 運転: 12時間/日 300日/年  
 原材料: 未利用間伐材等の木質バイオマス 1.5ト/日 450ト/年  
 CO2排出量削減: 350ト/年-CO2/年  
 化石燃料削減量: 90kl/年(原油換算)

元気村は近くの人に出てもらって、下草刈り、薪割り、炭焼きを高校生が合宿して3日間ぐらい、斧を持ったり、鎌を持ったりするといきいきして非常に効果が高いということで、毎年合宿している高校もあるということになってきました。

森林環境税を導入してほしいな、ということがあります。埼玉県ではみどりの基金ということで、ずいぶん間伐がかけられるようになってきました。まだまだ、ちょうど伐る時期にありますので、国として森林環境税の制度設計がほしいな、というところです。

スギ・ひのき等の人工林については、間伐をかけて間引いてあげることで、1ヘクタール100メートル四方に3千本ぐらいの苗木を植え、育っていく中で隣どうしがくっついて、陽が差し込まないで、風が通らなくなるということで来ていますので、最終的にだいたい3分の1まで間伐するところまで持って行くことで、立派な木に育つようにしてあげることが必要です。下刈りは苗木の段階で草がおいしげって、木がだめになるので、草を刈ってあげるということです。作業道ですが、自分の森林の中に造っていくことで車や機械が入るようになり、作業性が向上するということです。

「荒川サミット宣言」・・・平成16年に埼玉県内のすべての自治体の首長さんに集ってもらい採択していただきました。共通の理解を深めて、上下流の循環型社会をつくりましょう、と翌年から地元秩父の中学生と流域の熊谷市、さいたま市、所沢市などの中学生に来ていただいて環境活動の発表だとか、植樹をやったこともあります。

流域の理解者を増やしていくということで「ちちぶ森と水の応援団事業」・・・どんぐりを拾って、ポットに植えて持ち帰っ

ていただいて、都会で育ててもらって、3年後にまた植えにきていただくとか、植樹にきていただく、間伐のボランティア 薪拾いイベントもやっています。

「てんぷら油のリサイクル事業」を平成19年の10月からスタートさせました。学校給食やご家庭からてんぷら油を出していただいて、市の公用車6台に使わせていただいています。

発電所から出てくる炭なんですけど、アルカリが非常に強いものですが、畑の土壌改良剤とか、水質浄化剤にご利用いただいています。

杉チップや炭を使った排水浄化実験です。元気村のお風呂とかトイレの排水を傾斜土槽法という炭や杉のチップが入った容器で、きれいにしていくわけですが、モミガラの子菌が固形分を食べて、排水のみ傾斜土槽容器に入れる。低エネルギーで水の浄化ができるという方法です。バイオマストイレも展開をいたしまして、個人のご家庭と下水処理場の外トイレにもあり、オガクズで大便を分解していく方式です。1年もすると今度はそのオガクズを畑に入れて肥料にするということです。

去年の2月にバイオマスタウン構想を発表しました。いろいろな主体の方に参加をしていただかないとできないんですよね。「みんなでつくるバイオマスタウン秩父」ということで、キャッチフレーズを掲げました。「みんな

秩父市 使用済み天ぷら油リサイクル事業				
	<平成20年度>		<平成21年度>	
	H21年3月末 現在		H21年12月末 現在	
回収量	約 5,900		約 5,105	
給食調理場	約 4,550		約 3,100	
保育所	538		353	
家庭・事業所など	812		1,653	
製造量	3,550	(71回)	4,706	(96回)
BDF使用車両	5台		6台	
供給量	3,130.8		4,137.8	
走行距離	21,201 km		30,797 km	

のバイオマスを、みんなが知って、みんなで知恵を出してもっと工夫をして使って、すすめましょう。」ということです。

木材の需要が増えていくということが一番大事だと思っています。秩父の木は丈夫ですので、ぜひ皆さんにご利用いただきければありがたい、と思っています。バイオマスは単体でやるよりも、複合化してすすめる。温風・温水の利用にしても、炭も使えるということで、いっぱい出口をつくって行って、いろいろな利用をひっかけながら、進めていくことがだいじかな、と思っています。「循環」というのはどこでつながるか、わかりませんので、どんどんやっていくうちにつながってきたというのが感想ですし、そう進めるべきだ、ということで進めています。家庭に薪をつかったストーブを設置してもらおうと、考えています。出口をいっぱいつくって、いっぱい理解者をつくって、バイオマスタウンをすすめるということでご理解をいただけたら、と思います。

秩父は自然の宝庫、都心に最も近いブナを観光でも活用したいと思います。白神のブナでない、秩父のブナは関東圏の環境のパロメーターで使ってほしい、注視してほしいということです。

水がよくなって、食べ物もおいしくなって、下流の皆さんとも仲良くできる。秩父のバイオマスタウンは森と水を通じてあらゆる資源を使ってすすめてまいりたいと思います。皆さんのご協力とご支援をお願いします。秩父エコツアーもご利用ください。

**「新狭山ハイツにおける環境保全活動」**  
 NPO法人グリーンオフィスさやま（愛称じおす）代表理事 毛塚 宏 氏

昭和 48、49 年入居、築 36 年の 5.6 ヘクタール（共有地）の団地で地域資源を活かす取り組みをしている現状を「モノ」「ヒト」「カ

ネ」「コト」の観点からお話しします。「ヒト（担い手）」は自治会、管理組合を始めとして多数の組織があり、その中で緑化推進本部、わくわく自然園を守り育てる会、生ごみリサイクルを進める会のコアメンバーが話し合いの末、2003年にNPOが生まれました。延べ 1,600 名で年間 6,700 時間の活動をして、団地の緑地の管理・運営やビオトープの自力建設・管理運営、生ごみの堆肥化などを展開してきました。



「モノ」に関しては一番使い勝手の良い「共有地」を活用し、色々団地全体の環境改善を図ってきました。団地周辺の遊休農地や林地を交流の場や憩いの場として提供したりもしています。ごみ置き場をまちかど広場に再整備、剪定枝や伐採木のチップ化や炭焼き、雑木林の再生など行っております。

「カネ（活動資金）」は小さなコミュニティにとってやっかいな問題で、管理組合や自治会からの受託、或いは助成金、また狭山市からの委託金などを活動資金とし、参加費も原資となり、地域の中で賢く循環するよう心がけています。

「コト」に関わることでこだわってきたのはセルフエイド 面白がり屋精神と言うか遊び心で自分と地域を磨く 継続は力 地域はめだかの学校 ゆるやかな結び合いです。要は賢く地域資源を発見・活用していく、“素敵に加齢するコミュニティづくり・街づくり”に取り組んでまいりたいと考えています。

## 桶川炭の会 活動報告

桶川炭の会 今井 正文 氏

<大人の遊園地を目指して>

会のスタートは何人かの方が「竹を焼いて遊びたい」という相談を10年前に博物館を訪ねて来られました。当時私は博物館にいて「もっとアピールする博物館」のようなものを考えていました。そんなこともありその相談に乗りました。お金もなく、技術もなく、土地もなく、道具もない方々だったので、その後1年くらいかけて色々調べたり、よそに協力を仰いだりしながら話を詰めてきました。竹を焼く「炭焼きの技術」は、比較的町の中でやっている所沢の「炭焼きの会」の協力を得たり、土地はタダで快く貸して下さる方がおられたり、その代わり地主さんの雑木林はきれいにしてあげることを約束しました。その近くの方からは電気、水道の無償供給の協力を得られたり、活動場所の近くには女性が会の半分いますので、トイレを借りられる川田谷小学校の協力を得られたり、その代わり是非学校の総合学習で利用をしていただく様にと、ただこの件だけは期待外れでこれまでに1~2回遠くの学校が利用してくれる程度でした。

その後の活動は、雑木林の中にある落葉樹の落ち葉を集めて堆肥にし、それを桶川市の環境課で取り組んでいる駅前の「花いっぱい運動」の肥料に使ってもらったり、竹炭や竹酢液は、イベントの時に販売したりしてきました。また圏央道の工事で幾つかの雑木林が倒



されて、燃やされ灰になる訳ですが、それならいっそ竹は炭にしたら環境にも良いと伐採し、もらって利用してきました。

またよその会、例えば地域文化研究会や木工の会との交流を図り鳥の巣を作ってもらい林の木に取り付けたりし、いわゆるコラボレーションをしてきました。

活動のおかげでかつては「痴漢に注意」の看板があったところは、今はきれいな見通しの良い雑木林となり不法投棄もなくなりました。最近は色々な種類の林床植物が復活し目を楽しませてくれています。

私たちの活動が地域の良好な環境維持に少しでも役立ってきているのかなと思っているところです。

### 活発な質疑応答の一部をご紹介します。

Q、バイオマスタウン構想に名乗りをあげるための基準、具体的にどうやったらよいか知りたい。

A、志木市などで考える場合、地域でどのようなバイオマスが存在するのか、統計から推計して出すが、農林系は少ないと思う。都市部で食品残渣をどれくらいリサイクルできるかがネックという課題となります。

リサイクル率を上げることと、リサイクルしたものの活用の仕方、受け皿など、集めたものをどうするか、具体的なスキーム、具体的な仕組みが必要。行政が動くためには、市役所の環境サイドと農業サイドと両方が絡んで



復活したフデリンドウ(右:朱鷺色)とギンラン

くるので、ある程度見通しを立てて、具体的な取組みを提案していただくのが1つかと思います。

実際には、市民からのボトムアップよりは、「我市では環境に積極的に取りくんでいこう」とトップダウン的な事例が多い。税金を投入するのでバランスが大切。市は旗振り役が環境に目覚め、調査研究に入り、協議会形式でタウン構想をつくってもんでいくのが1つのやり方です。

国は1/2の補助をし、残りは市、もしくははどなたかが負担することになるので、めどのあるありそうな市町村を廻っても、1/2補助が厳しくてやれないというところが多いです。構想をつくり、自前で施設がつくるのか地域の民間企業と協同してリサイクルするのかなど、地域の事情があるので、相談してすすめるのがはじめかなと思います。

### 総会のご案内

日時：平成22年5月22日(土)午後1時30分～4時30分

会場：大宮ソニックシティビル 704号室

エコ・リサ会員限定講演会。

お楽しみに。

記念講演：『リサイクル貧乏は誤りです！』

講師：土淵 昭 氏(エコ・リサ理事)

全国の自治体では、「ごみは燃やすのが一番コスト安で、ごみをリサイクルすると費用が高つくので、まじめにリサイクルを進めると“リサイクル貧乏”になる。」というのが常識になっています。ところが、狭山市を例に土淵氏が試算したところ燃やすごみを焼却処理するよりリサイクルする方が、ずっと安く処理できるという結果が出ました。ぜひ、ご参加ください。

## エコ・リサ 入会のご案内

NPO法人埼玉エコ・リサイクル連絡会は、幅広い環境保全型のリサイクル活動を、市民団体だけでなく、製造・流通・再生資源などの事業者、各種団体・個人が参加し、県や市町村行政とも、ネットワークを創ってすすめています。

会費(年間) 個人会員 3,000円  
団体会員 5,000円  
賛助会員 10,000円(1口)  
協賛バナー登録 50,000円(年間)

### \* 振込み先・会費納入の際のご注意

郵便振替口座番号 00110-7-764571

加入者名 NPO 法人埼玉エコ・リサイクル連絡会

埼玉りそな銀行 大宮支店 普通 5392559

名義 特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会

郵便振替で入金される方は、お手数ですが  
通信欄に新規会員あるいは 会員  
年度分と明記の上、お振り込みをお願い  
いたします。(事務局)

**\*\*エコ・リサ会員の方にエコ・リサ通信の今後の配信方法についてお願い\*\***

事務作業、省コストの点からmail配信への移行をすすめております。

メール配信希望の方は [ecorisa-npo@fuyo-hin.com](mailto:ecorisa-npo@fuyo-hin.com) まで「エコ・リサ通信mail配信希望」として氏名・アドレスの連絡をお願いします。

## あなたも、自分で税金の使い道を決めてみませんか？

「ふるさと納税制度」は、納税者が自分の税金の使い道を決める事ができる画期的な制度です。寄付金の一定限度額まで、寄付金から5千円を除いたすべての額が、住民税と所得税から減額になります。

### ふるさと納税制度を活用して、エコ・リサの活動支援をよろしくお願いします。

まずは、県 HP から書式をダウンロード、もしくは埼玉県の NPO 活動推進課へ寄付申込書を請求し、寄付申込書の寄付希望団体名欄に「埼玉エコ・リサイクル連絡会」と記入して銀行・郵貯で、お振込みをお願いいたします。

地方公共団体（都道府県及び市区町村、埼玉県 NPO 基金を含む）に対して寄付を行った場合、翌年の確定申告をすることで、5,000 円を超える部分について、通常の所得税や住民税の寄付金控除のほか、住民税所得割額の 10% を上限として、住民税の特例控除が行われます。



寄付申込書兼領収書見本

翌年の確定申告の際、寄付申込書県領収書が必ず必要ですので、大切に保管してください。確定申告書の第 2 表について寄付金税額控除の都道府県、市町村分の欄に「寄付金額」を記入し、の寄付先の所在地・名称欄には、「埼玉県」と記入してください。

### 控除額の計算方法

#### 寄付控除対象額

+ +

#### 【住民税控除】

+

基本控除額：(1年間の合計寄付金額 5000 円) × 10%

特別控除額：(1年間の合計寄付金額 5000 円)

× (90% 所得税率) \*1

\*1 住民税所得割額の 1 割が限度です。

#### 【所得税控除】

(1年間の合計寄付金額 5000 円) × 所得税率

ご寄付いただいた際には、エコ・リサ事務局に

ご連絡くださいますようお願いいたします。

詳しくは埼玉県ホームページをご覧ください

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A01/BF00/furusato/furusato.html>

所得税の速算表	
課税される所得金額	税率
195 万円以下	5%
195 万円を超え 330 万円以下	10%
330 万円を超え 695 万円以下	20%
695 万円を超え 900 万円以下	23%
900 万円を超え 1,800 万円以下	33%
1,800 万円超	40%

